

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
スーパー演習 (国語)	2	3年・2類	選択
授業担当者	教科書名		副教材等
HHHHHHH	ロジック現代文 (桐原書店) 他		入試の過去問、模試プリント等

<p>科目の到達目標</p> <p>現代文、古典 (漢文を除く) とともに、私大入試を目標とした読む力、解く力の養成を継続的に行うとともに、模試の過去問題を解くことで応用力を養成していく。</p>
--

<p>評価の観点と方法について</p> <p>定期考査と平常点 (課題提出状況、授業態度等) を加味して総合的に判断する。</p>

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	現代文 「ロジック現代文」 ①～⑩	<ul style="list-style-type: none"> 各単元で評論、小説分野の学習をそれぞれ行い、入試に対応できる基礎学力の定着を徹底的に目指す。 古文の問題演習を通じて、文法の復習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 古文では、定着度を確実なものとするために、問題文で使われた文法をおさらいして学習していく。 現代文では、「読み方」「解き方」を区別して復習し、システムティックに演習に取り組むことを意識する。 	<ul style="list-style-type: none"> 復習がなされているか。 ポイントを理解し、運用できるようになったか。
	5	古文 「私大マーク対応古文」 ①～⑩			
	6				
	7	<期末考査>			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	現代文 「ロジック現代文」 ⑪～⑳	<ul style="list-style-type: none"> 各単元で評論、小説分野の学習をそれぞれ行い、入試に対応できる基礎学力の定着を徹底的に目指す。 古文の問題演習を通じて、文法の復習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 古文では、定着度を確実なものとするために、問題文で使われた文法をおさらいして学習していく。 現代文では、「読み方」「解き方」を区別して復習し、システマティックに演習に取り組むことを意識する。 	<ul style="list-style-type: none"> 復習がなされているか。 ポイントを理解し、運用できるようになったか。
	10	古文 「私大マーク対応古文」 ⑪～⑳			
	11				
	12	<期末考査>			
三 学 期	1	共通テスト対策			
	2				
	3				

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

期末考査は原則初見問題になります。現代文、古文ともに、しっかりと読む力、解く力を身につけましょう。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
スーパー演習 公民	2	3年2類文型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
HHHHHHH	最新政治・経済 (実教出版)	WINSTEP 政治経済 (ラーズ)	

科目の到達目標
政治・経済の大学入試共通テスト対策として、授業および問題演習・解説を通して要点の整理を行い、実践的な問題に対応できることを目指す。

評価の観点と方法について
期末考査を行う。適宜ノート・プリント等の提出・チェックを行う。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	現代社会の諸課題	時事的内容も盛り込み、現在の国内・国際経済の動きについて理解する。	少子高齢社会と社会保障 地域社会の変貌と住民生活 雇用と労働をめぐる問題 産業構造の変化と中小企業 農業と食料問題	ノート提出 期末考査
	5	地球環境と資源・エネルギー問題		地球規模に広がる環境問題 地球温暖化 先進国と発展途上国の対立 エネルギー問題	
	6	国際協調と国際経済機関の役割		国際通貨制度の成立と変化 南北問題と経済協力	
	7	国際経済の仕組み		自由貿易の意義 国債収支の仕組み 外国為替の仕組みと外国為替相場 外国為替相場の決定	
		国際経済の特質		グローバル化する市場経済 地域的経済統合の動き アジア NIES と中国の経済成長	

	月				
二 学 期	9	国際経済における日本の役割	問題演習を通して経済範囲の復習と要点の整理を行い、入試対策を行う。	国際経済における日本 日本の経済協力 国際経済の課題と日本の役割	
	10	政治・経済分野の 実践問題演習・解説		プリント教材を使った政治分野の復習、および過去問等の実践問題演習・解説	
	11				
	12				ノートまたは課題提出 期末考査
三 学 期	1				

その他（ 大学等進学のための学習など ）

大学入試共通テストを倫理・政経で受験する生徒に対し、倫理分野等についての対策を行う。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
スーパー演習(数学)	2	3年・2類・理型	選択
授業担当者	教科書名		副教材等
HHHHHHH	高等学校 改訂版数学Ⅲ (数研出版)		チャート式 基礎からの数学Ⅲ(数研出版)

科目の到達目標
微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばす
とともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。

評価の観点と方法について
平素の学習意欲や学習態度を重要視し、数学的問題解決能力を小テスト、課題テスト、課題ノート等で確認する。
定期考査・課題テスト・小テストの各成績、課題ノートの提出および内容、授業態度から総合的に評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	第4章 極限 第2節 関数の極限	関数値の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	数学Ⅲの授業と並行して行う。講義形式の授業、プリントを用いた小テスト、演習を行う。 演習は各章または各節の学習が終了するごとに行う。	<ul style="list-style-type: none"> 関数値の極限について理解している。 微分係数・微分可能の定義とその図形的性質を理解している。導関数の性質、積の導関数、商の導関数、合成関数の導関数、逆関数の微分法を理解し、種々の導関数の計算に利用することができる。 三角関数、指数・対数関数、陰関数、媒介変数で表された関数などの導関数を理解している。 導関数の意味を理解しており、接線の方程式を導くことができる。 平均値の定理を理解し、それを活用することができる。 関数の増減・凹凸・変曲点・漸近線などを調べ、関数のグラフをかきことができる。また、それらを利用して関数の最大値・最小値を求め、さらに方程式・不等式への応用ができる。 いろいろな関数の不定積分を求めることができる。 被積分関数の形の特徴から、置換積分法や部分積分法を利用して、不定積分を求めることができる。 色々な関数の定積分を求めることができる。 特別な形をした数列の和の極限を定積分を利用して求めることができる。
	5	第5章 微分法 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数	関数の積及び商の導関数について理解し、関数の和、差、積及び商の導関数を求める。合成関数の導関数について理解し、合成関数の導関数を求める。三角関数、指数関数及び対数関数の導関数を求める。		
	6	第6章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用 (中間考査)	導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程式を求めたり、いろいろな関数値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べグラフの概形をかいたりする。また、それらを事象の考察に活用する。		
		第7章 積分法とその応用 第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 積分法の応用	積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
	7	(期末考査)		・積分法の応用 面積 体積 道のり 曲線の長さ	・定積分を用いて様々な図形の面積や体積を求めることができる。 ・定積分を用いて様々な曲線の長さを求めることができる。
二 学 期	9	入試問題演習	標準問題までを確実に解く力量を養う。	入試問題演習 (標準編) 標準的な数学Ⅲの問題を演習する。 定期的に実力テストを行い、実践力を養う。	1 学期に学習した基本事項、定石を理解しているか確認する。
	10	(中間考査)	応用力をつける。 難度の高い問題を解く力量を養う。	入試問題演習 (実践編) 近年出題された入試問題を中心に、入試問題を実際に解く。定期的に実力テストを行い、実践力を養う。	小テスト、課題テスト、課題等で確認する。
	11		今までの演習の総まとめ。 演習を重ねるごとに難易度を上げ、実力を養成する。	数学演習①の授業と協力して、共通テスト対策の解説の授業と数学Ⅲの演習の授業に分けて、生徒のニーズに対応する	
	12	(期末考査)	共通テストに備えて実践を積む。		
三 学 期	1	共通テスト直前演習	共通テスト対策の総仕上げ	共通テストまでは、その対策を行い、総仕上げをする。 共通テスト後、2次試験対策を行う。 2月の家庭学習期間中に2次試験対策を行う。	1・2 学期で学習した知識が使えるかどうか。

その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など)

数学Ⅲの授業と平行して数学Ⅲの履修を行う。その後、問題演習を行う。2年次で、「第1章 複素数平面」「第2章 式と曲線」「第3章 関数」「第4章 極限 第1節 数列の極限」は履修をおえている。1・2年次に引き続き、小テストを行い、青チャート、青チャートの補助プリントと合わせてテスト前の課題とする。自分で解けるようになって初めて自分の力となる。自力で解くことの大切さを理解し、問題集は自力で解けるようになるまで、何度も同じ問題を解いてほしい。そうすれば、確実に数学の力はついていく。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
スーパー演習	2	3年・2類	選択
授業担当者	教科書名		副教材等
HHHHHHH	SKILLFUL (啓林館)		入試の過去問、模試プリント等

<p>科目の到達目標</p> <p>既習の基本的英文法の復習を行いながら、長文の理解を深めていく。基本事項を徹底するとともに、模試の過去問題を解くことで応用力を養成していく。</p>

<p>評価の観点と方法について</p> <p>定期考査と平常点（小テスト、宿題やプリント等への取り組み・提出状況、授業態度等）を加味して総合的に判断する。</p>

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	Lesson1	各単元で学習する文法項目で復習をし、入試に対応できる基礎学力の定着を徹底的に目指す。	定着度を確実なものとするために、長文で使われた文法と英語表現で学んだ文法を関連させて学習していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 復習がなされているか。 ・ ポイントを理解し、運用できるようになったか。
		Lesson2			
		Lesson3			
		Lesson4			
		Lesson5			
	5	Lesson6			
		Lesson7			
		Lesson8			
		Lesson9			
		Lesson10			
6	<期末考査>				

	月	学習单元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	Lesson11			
		Lesson12			
		Lesson13			
		Lesson14			
	10	Lesson15			
		入試問題等の演習			
	11				
	12	<期末考査>			
三 学 期	1	入試問題等の演習			
	2				
	3				

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

1・2年次に学習した文法事項が基本となります。数多くの文法問題・英文に触れ、運用能力を身につけましょう。受験に向けて、「正答率50%の問題」をしっかりと解けるように、この1年間頑張りましょう。